



2025 年 5 月 15 日

各 位

会 社 名 株式会社フーバーブレイン
代表者名 代表取締役社長 興水 英行
(コード: 3927 東証グロース市場)
問合せ先 管理部 部長 植村 浩之
(TEL. 03-5210-3061)

通期連結業績予想値と実績値との差異及び 通期個別業績実績値と前期実績値との差異に関するお知らせ

2025 年 3 月期の通期連結業績予想値と実績値に差異が生じたので、お知らせいたします。また、当社は、個別業績予想につきまして開示しておりませんが、2025 年 3 月期の通期個別業績実績値と前期実績値との対比において、その差異が適時開示の基準に達しましたので、併せてお知らせいたします。

記

1. 2025 年 3 月期通期連結業績予想値と実績値との差異について

2025 年 3 月期通期連結業績予想値と実績値との差異

	売上高	調整後 営業利益	営業利益	経常利益	親会社株主 に帰属する 当期純利益	1 株当たり 当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想 (A) (2024 年 11 月 14 日発表)	4,200 ～4,400	200 ～300	—	—	—	—
当期実績値 (B) (2025 年 3 月期)	4,373	290	187	165	109	20 74
増減額 (B - A)	173 ～△26	90 ～△9	—	—	—	
増減率 (%)	4.1 ～△0.6	45.4 ～△3.1	—	—	—	
(ご参考) 前期実績 (2024 年 3 月期)	3,075	50	22	35	27	5 16

2. 差異の理由

(1) 売上高、調整後営業利益及び営業利益

前回 2024 年 11 月 14 日業績予想公表後、当連結会計年度下半期において、当社の基盤事業である

「セキュリティ製品」は前連結会計年度同等の実績を確保しつつ、成長事業である「セキュリティ&ネットワーク aaS 製品」及び「働き方改革製品（SaaS 型）」が順調に拡大し、通期で前連結会計年度比 68.8%増、32.5%増となり、オーガニックグロースによる事業拡大を継続しました。「IT サービス」については、2025 年 10 月から新たに子会社化した株式会社 A R P E G G I O 及びイチアール株式会社が、M&A グロースとして業績貢献し、前連結会計年度比 58.1%増となり、売上高は、予想レンジの上限に近い結果となりました。

グループ成長の重要ファクターとして積極的な M&A・戦略提携による M&A グロースを取り入れる当社が重視する KPI である「調整後営業利益（注）」については、オーガニックグロース及び M&A グロースにより売上高が拡大しことに加え、販売費及び一般管理費をグループでの適正化に取り組んだことで、予想レンジの上限に近い結果となり、9 期連続で過去最高を更新いたしました。

営業利益については、のれん償却額等の M&A により生じた無形資産の償却費用及び取引費用を計上するも、2015 年 3 月期以来の過去最高を更新する結果となりました。

（注）調整後営業利益＝営業利益＋M&A により生じた無形資産の償却費用及び取引費用＋株式報酬費用＋その他一時的費用

（２）経常利益及び親会社株主に帰属する当期純利益

助成金収入を営業外収益として計上する一方、外貨建債権債務等に係る為替差損及び持分法による投資損失を営業外費用として計上し、特別損失として固定資産除却損を計上する一方、法人税等調整額（△は益）を計上しております。

３．2025 年 3 月期通期個別業績実績値と前期実績値との差異について

2025 年 3 月期通期個別業績実績値と前期実績値との差異

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1 株当たり 当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前期実績値 (A) (2024 年 3 月期)	2,045	9	29	26	5 01
当期実績値 (B) (2025 年 3 月期)	2,659	105	96	82	15 71
増減額 (B－A)	614	95	66	56	
増減率 (%)	30.0	1012.8	226.7	216.1	

４．差異の理由

（１）売上高及び営業利益

当社の基盤事業である「セキュリティ製品」は前連結会計年度同等の実績を確保しつつ、成長事業である「セキュリティ&ネットワーク aaS 製品」及び「働き方改革製品（SaaS 型）」が順調に拡大し、通期で前連結会計年度比 68.8%増、32.5%増となり、オーガニックグロースによる事業拡大を継続し、前期実績を上回りました。

売上高の拡大を実現する一方、販売費及び一般管理費の適正化により営業利益は前期比 1012.8%増と拡大する結果となりました。

(2) 経常利益及び当期純利益

営業外費用として外貨建債権債務等に係る為替差損を計上し、特別損失として関係会社株式評価損を計上する一方、法人税等調整額(△は益)を計上したことで、経常利益及び当期純利益ともに前期実績を大幅に上回りました。

以上